

千葉県環境審議会水環境部会（令和3年度第5回）における質問事項と回答について

No	質問事項	回答
1	<p>都川、葭川の環境基準点周辺は、合流式下水道ということか。改善の見込みや見通しはどうか。（齋藤委員）</p>	<p>都川や葭川の環境基準点を含む千葉市中心部は、雨水と汚水をまとめて排水する合流式下水道が整備されています。合流式下水道の改善対策については、下水道法施行令により義務付けされた期限である平成25年度までに完了しています。</p>
2	<p>都川、葭川の大腸菌数の測定結果を見ると数値が大きい、その要因は何か。（齋藤委員） 都川、葭川の大腸菌数の測定数値が大きいことの原因として、都川上流に設置された単独浄化槽が影響しているのか。（近藤部会長）</p>	<p>大腸菌数が検出される要因としては、糞便汚染された汚水の影響が大きいと考えられます。都川や葭川の環境基準点を含む千葉市中心部は、雨水と汚水をまとめて排水する合流式下水道が整備されており、その構造上、大腸菌数への影響が考えられます。一方で、千葉市水環境保全計画改定版（平成29年4月）によると、平成27年度の生活排水処理形態別人口における割合として、都川下流・葭川下流では下水道処理人口が約99%に対し、都川中流では単独処理浄化槽人口は約2%、都川上流では約9%と、上流に向かうほど単独処理浄化槽の割合が高くなってますが、他の測定地点での大腸菌数のデータがないこともあり、都川、葭川の大腸菌数が高い要因は明らかではありません。現在、県が過去に行った他の河川における大腸菌数のデータを整理中であり、実態把握を進めていきます。</p>
3	<p>大腸菌数の改善余地がどれだけあるかによって、さらに上位の類型に見直しするという考え方もあるのではないかと。（齋藤委員）</p>	<p>現在、県が過去に行った他の河川における大腸菌数のデータを整理中であり、実態把握を進めていきます。なお、都川及び葭川の環境基準点における大腸菌数の詳細なデータを資料2-2に示します。</p>